

施策番号	225	施策名	観光の振興	主管課名	産業観光課
総合計画 体系	政策名	2	地域経済を支える里づくり	令和 2 年度課長名	小椋 正己
	関係課名	まちづくり課		シート作成者	小谷 英

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア	町内への来訪者(観光客)	→	ア	千人	見込値 実績値	16,957	16,957	16,957	16,984	16,984
						16,957	16,957	16,957	16,984	16,984
イ		→	イ	回	見込値 実績値	4	4	0	5	5
						4	4	0	5	5
ウ		→	ウ		見込値 実績値					
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア	鏡野町に来てもらう、泊まってもらう、食べてもらう、買ってもらう	→	ア	千人	目標値 実績値 達成率	1,065	1,080	1,100	800	825
						928	925	729		
						87.1%	85.6%	66.3%	91.1%	88.4%
イ		→	イ	千人	目標値 実績値 達成率	29	29	30	20	21
						26	24	18		
						89.7%	82.8%	60.0%	90.0%	85.7%
ウ		→	ウ	人	目標値 実績値 達成率	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
						31,200	67,000	0		
						62.4%	134.0%	0.0%	0.0%	0.0%
エ		→	エ		目標値 実績値 達成率					
⑤ 成果指標 設定の考え方		直接的に判断が可能な観光客入込数により成果指標を設定。町内各施設からのデータを町が集計。→集計対象、集計方法を明確にして、継続的に実施※H19より集計方法変更(年間入場者数調べ各観光施設から報告を受けた実績を全て加算したもの-延べ人数)最大の誘客を誇るもみじ祭りは集計が不可能。				⑥ 成果指標の 把握方法と 算定式等		観光客入込数 延べ宿泊数 (鏡野町内観光客入込調査) 町主催イベント来場者数 (町5大祭り入込客数)		

2. 施策の役割分担

	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上 に向けた 住民と行政との 役割分担	町主催のイベントやプラン、秋の紅葉などの四季を通じた魅力を発信するとともに鏡野町のイベントへ積極的に参加する。他の地域には無い地場産品の開発や接客、案内によるおもてなし等を充実させる。また、積極的に体験型の着地型観光に取り組む。近年増加している外国人観光客も多数来町しており、鏡野町への訪問を可能にする観光キャンペーン等の宣伝を岡山県や観光事業者と協力しながら行う。	(町)観光関係団体の支援や育成。案内看板の設置・人材育成等受入環境整備。全町の一体的なPR・プロモーション活動。特産品開発等への助言、支援。観光協会及び協議会等との全町調整による企画の立案など。 (県)県内市町村・観光事業者との連携、ネットワークづくり、観光キャンペーン。 (国)市町村・DMO等への支援、国家プロジェクト、インバウンドの推進。

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因	
2 年度 の 評価結果	① 成果指標の時系列比較 (成果は向上したか? 低下したか? 要因は?) 観光入込客数はここ数年減少傾向で推移している中で、新型コロナウイルス感染症により全世界的な影響を受けた観光業は、宿泊施設や飲食店を中心に深刻な影響をもたらしており、奥津温泉や国民宿舎いつきの利用者も大幅な減少が続いている。イベントやアウトドア施設など、季節と天候により入込客数の増減が激しく、温暖化による雪不足により恩原高原スキー場やスノーモビルランド in ナチュラル泉源は、不安定な経営状況が続いている。日帰り温泉施設については、花美人の里やのどろ温泉の修繕工事等を行い魅力向上を図っているものの、他施設も含めコロナ禍により大幅な減少となっている。ただし、自然志向の高まりにより、自然スポットへの来場者は横ばいもしくは一部増加となっている所もあり、減少幅を抑えている要因となっている。
	② 他団体との比較 (近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?) 宿泊者数について、新型コロナウイルス感染症の美作三湯と比較すると湯原や湯郷も大幅な減少であり、奥津温泉についても、対昨年比では大幅に減少している。キャンプ場やログハウス等多種多様な宿泊形態が増加していることが原因の一つと考えられる。
	③ 住民の期待水準との比較 (住民の期待よりも高い水準か、低い水準か、どんな意見や要望が寄せられているか?) 日帰り温泉施設や恩原高原スキー場等の改修要望など町民の観光施設への期待度は大変高い。温泉施設の営業時間の延長、公園への大型遊具の新設などが町民の要望として上げられている。
2. 施策の成果実績に対する 2 年度の取組や目標達成度	
■ 2 年度の主な取組の成果(改革改善した取組、目標の達成度は?)	
町の重点施策である「健康」をキーワードに、地域資源を活かしたエコツーリズムを推進する国の補助事業を受けて、「健康の町かみ」のプロモーション本部が中心となり、一体的なPR・プロモーションに取り組んできた所であるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、人の移動が大幅に制限され、鏡野町主催の5大イベントや関西等県外PRイベントやプロモーション活動は全て中止となる中で、戦略的な情報発信や会員制ファンクラブの運用、受入環境整備などに取り組んだところであるが、文化・スポーツ施設の合宿補助金の実績など、殆どの実績が前年を下回った。	<input type="checkbox"/> 目標値以上 <input type="checkbox"/> 目標値どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標値以下
3. 施策の今後の課題と改革改善の方向 (うまくいかなかった取組や事務事業は? その原因は?)	
・新型コロナウイルス感染症の影響により観光産業は大きな打撃を受けており、新しい生活様式に対応した新たな観光戦略が必要であり、安心・安全な受入環境の構築は勿論のこと従来の観光需要だけに頼らない観光振興の構築が喫緊の課題である。 ・鏡野町の強みである健康素材のブランディングを進め、自然環境を活かしたエコツーリズムの推進による受入環境の充実を図ると共に美しい水に抱かれた森林や農林水産物、温泉等を活かした地域資源の商品化を進め一体的なPR・プロモーションを展開する。 ・鏡野町観光協会を主とした観光活動全般の成果や効果検証を行い、新しい時代に対応した推進体制の構築を進める。 ・大手アウトドア企業と連携したビジョンに基づく商品開発や受入環境整備を進め、「高清水トレイル」や「奥津湖」を活かした自然アクティビティの充実を図り、ファン創出による観光消費額の拡大を目指す。	